

平成 17年 7月27日

千葉県知事 堂本 暁子 様
千葉市長 鶴岡 啓一 様

J F E スチール株式会社
株式会社 鉄鋼社 戸 用 用

改善対策の実施状況報告

平成 17年 2月 17日、及び平成 17年 3月 9日付けにて、千葉県・千葉市殿にご報告申し上げた改善計画書に関して、平成 17年 7月時点での改善の進捗について、添付書類のとおり実施状況をご報告申し上げます。

今後ともよろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。

目次

1. 千葉地区における環境管理体制の抜本的建直し

2. 本社における指導体制の強化

3. ダスト精錬炉及びその関連施設におけるシアン対策

5. 県民・市民の皆様への情報開示

平成 17 年 2 月 17 日、及び平成 17 年 3 月 9 日付けにて、千葉県・千葉市殿にご報告
申上げを改善計画書に開示しての改善実施状況について報告いたします。

終日 不具合個所の抽出と改善を目的に 副所長をリーダーとした環境・衛生

パトロールを開始いたしました。

パトロール対象は、協力会社も含む各製造部門とし、所長・副所長・環境
管理部門 各部署に協力を依頼いたしました。また、パトロールの記録簿を作成し

各部署に「不具合」を明確にするため 之の担当改善士に依頼し

そして、平成 17 年度中に千葉地区全 11 工場に公害防止管理者を任

命・配置します。

(5) 環境マネジメントシステムの運用

従来の『東日本製鉄所（千葉地区）環境マニュアル』、及びこれに付帯す

る標準類の改訂を完了し、5 月 10 日に運用を開始いたしました。

改訂は、今回の環境問題の発覚以降に実施してきた各種改善策を環境マネジメントシステムの体系に合わせて標準化したものです。

今後も、新たに実施する改善策については、標準化を進め、関係者に作業

(6) 水質異常監視の強化と水質分析データの管理について

排水口・排水溝における異常の迅速把握のために、自動分析器の導入拡大を計画中です。自動分析器は、短時間で結果が判明するため、異常の兆候を速やかに発見し、基準超過を未然防止する上で有効です。

実施計画案がまとまり、5 月 27 日に千葉県・千葉市殿に事前協議書を 2

(1) 本社監査部による環境監査

4月以降、本社監査部のメンバーに外部の環境コンサルタント（2名）を加えた体制で弊社、及びグループ会社の各事業所の環境監査を実施しています。

社内は、3月の5事業所の監査に加え、6月6日に千葉環境防災室の監査を実施しました。

今後、千葉地区は9月、12月、3月に、他事業所は9月、3月に監査を実施する予定です。

グループ会社に関しては、7月25日現在、13社・17事業所の監査を実施致しました。今後、主要なグループ会社事業所については9月までに1回目の監査を終了し、来年3月までには2回目を実施する予定です。

(2) CSR (Corporate Social Responsibility) 会議の設置

4月に企業の社会的責任(CSR)に徹底的に取り組むための推進組織として、本社にCSR室を設置いたしました。7月よりCSR関連のテーマに関する最

弊社のエンジニア全員（対象者は約 1,800 人）に公害防止管理者の国家資格試験受験を義務付け、今秋の国家試験では約 720 名が受験する予定です。今後も計画的に受験をさせ、環境保全意識の向上に役立ててまいります。

3. ダスト精錬炉及びその関連施設におけるシアン対策

(1) 西六号排水口におけるシアン対策

西六号排水口におけるシアンの基準超過の原因と改善計画については、『千葉市環境審議会環境保全推進計画部会 シアン対策専門委員会』にて、4月19日、5月9日、5月24日、6月1日の4回にわたりご指導、ご審議いただきま

した。

ここでのご審議の結果、ダスト精錬炉よりのシアン漏洩の原因は、以下の4点であるとの結論にいたりました。

導入し、脱水スラジは造粒設備に直送することで脱水機周辺へのスラジ
しきりかみ取りを防止し、また、造粒機へのスラジの溜りも防止する。

スラジよりの漏洩を防止します。

② 造粒機上りの溜りかみ取り



造粒機、溜り桶、冷り桶の角列掃放レニイーンガ空転を行ひ、溜り

